武山米店へ登録証

気仙沼市魚町 市内では4件目

国の有形文化財

国の有形文化財に登録された気仙沼市魚町、「武山米店」に対する登録証と登録プレートの伝達式が二日、市役所で行われた。同店は今年初め、店舗と主屋一棟が登録されており、市内では同じ魚町にある「角星」店舗と旧酒造工場、「男山本店」店舗に次いで四件目となる。

鈴木市長から登録証を受け取る武山さん

伝達式には同店社長の武山文英さん、市文化財保護審議会委員長の荒木英夫さんと齋藤勝恵さん、内湾周辺の歴史的建造物を調査している風待ち研究会代表の真山美知代さん、事務局長の菅原千栄さんが出席。

鈴木昇市長から登録証と、〝証〟であるブロンズ製の登録プレートを受け取った武山さんは「古き良きものを見直すという意識が広がってきていることを感じます。内湾周辺のまちづくりへの一助につながれば」と話していた。

「武山米店」は昭和五年に建造された。木造二階建てで、奥行きは三十㍍あり、竹の子状の不整形な敷地に合わせて建てられているのが特徴。切妻造りで、母屋の奥には二階建て瓦葺きの石蔵がある。現在は武山さん夫婦と両親の四人が住んでいる。

風待ち研究会が十五年十月に調査を実施。昨年七月に登録手続きを申請し、今年二月に正式登録された。

三陸新報 2005年6月3日付